

「よこすか発電所 くりはまの森」について

2025年2月、横須賀火力発電所敷地内の緑地「よこすか発電所 くりはまの森」が、環境省の「自然共生サイト」に認定されました。これまでの植生管理などの取り組みが評価され、この場所が自然を大切にしているエリアであると認められたものです。

「オオシマザクラ植林」などの植栽や、植生自然度が高く評価される「スダジイ」などが共生する豊かな自然環境となっています。この森には、希少種を含む多様な動植物が生息・生育しており、2024年に実施した調査では、植物32種、動物235種の計267種が確認されました。また、これらを含めた横須賀火力発電所全体では、合計500種以上の動植物が確認されています。



オオシマザクラ植林



横須賀火力発電所全景

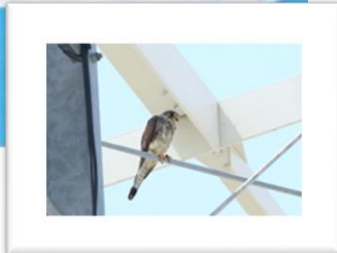
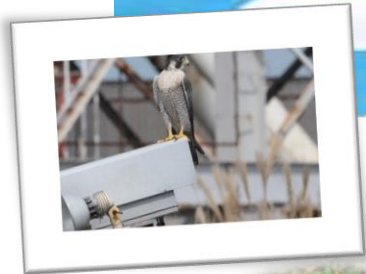
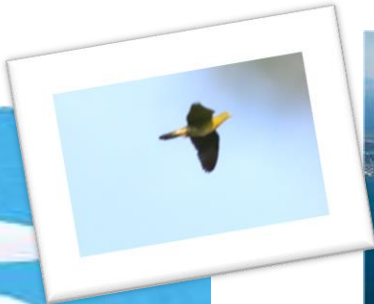


スダジイ群落

参考URL：株式会社JERA HP

[横須賀火力発電所敷地内の緑地「よこすか発電所 くりはまの森」が環境省の「自然共生サイト」に認定されました | お知らせ \(2025年\) | JERA](#)

横須賀火力発電所敷地で確認されたいきもの図鑑



No.01 タマムシ



神奈川県
要注意種等

↑重要種の指定状況等

■種の特性と生息環境

本州、四国、九州、対馬、屋久島に分布する。神奈川県内では全域に生息する。体長は24～40mm。全体に金緑色を呈し、赤色縦帯部は見る方向によっては紫藍色にも見える。6～8月に羽化した成虫はエノキやアキニレなどの葉を食べるために飛来し、周囲を飛翔する。寄主植物として、エノキ、ケヤキ、サクラ類、カシ類、カキ、クワ、ハリエンジュが知られる。

本種が観察される時期（月）											
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2

■生存を脅かす要因

環境劣化。

（神奈川県レッドデータ生物調査報告書（2006）より引用）

■特記事項

本種は「ヤマトタマムシ」という和名で呼ばれることもあり、日本産のタマムシのなかでは最大クラスで、なおかつ最も美しい種と言える。

（日本産タマムシ図鑑（2013）より引用）



No.03 アオダイショウ

県要注意種等

■種の特性と生息環境

北海道から九州に分布する。神奈川県内では、都市部を除く県内全域に広く分布していると思われるが、情報不足。山地の林から平野部まで様々な環境にすみ、日本では古くから最も身近なヘビとして知られる。成蛇は人家や倉庫などにもすみ着き、ネズミを良く捕食するので、「家の主」として大切に扱う地域も多い。冬季は土の中で冬眠する。

■生存を脅かす要因

生息地の減少。

■特記事項

市街地やその周辺で、本種の重要な住処であり、餌（ネズミ）場でもあった古い木造の住宅や倉庫等が姿を消し、目にする機会が極端に少なくなっている。

（神奈川県レッドデータ生物調査報告書（2006）より引用）

本種が観察される時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



No.05 キンラン

環境省
絶滅危惧種Ⅱ類

■種の特性と生息環境

本州、四国、九州に分布する。神奈川県内ではほぼ全域に生育する。

山地や丘陵地の疎林内や林縁に生える夏緑性の多年草。高さ約40cm、花は黄色で、茎の先にかたまるようにして複数個がつく。本種は、菌根菌と共生する部分的菌従属栄養植物で、菌根菌から多くの栄養を得ている。

■生存を脅かす要因

自然遷移や土地造成のほか、園芸目的の採取により危険にさらされている。

■特記事項

本種は、手入れの行き届いた雑木林内や林縁に好んで生える。一時期、雑木林の管理放棄によって著しく減少したが、里山環境の再現などにより県内各地で増加傾向にある。

(神奈川県レッドデータブック2022植物編より引用)

本種が観察される時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
↔			
↔			

※青矢印は開花時期を示す



No.06 タヌキ

IUCN低懸念

■種の特性と生息環境

北海道、本州、四国、九州および周辺の島嶼に分布する。神奈川県内では、ほぼ全域に分布し、山地から平地にかけて広く生息している。全身褐色の中型の哺乳類で、典型的な雑食の食性を持ち、残飯などのゴミも良く食べる。近年、市街地で個体数の増加が目立っており、交通事故にあう個体も多い。

(神奈川の鳥と獣 神奈川県鳥獣生息分布調査報告書 (平成4年3月) より引用)

■生存を脅かす脅威

死亡原因としてはジステンバーなどの病気、交通事故、罠、イヌによる捕殺などがあり、病気に次いで交通事故の占める割合が高い。

(神奈川県におけるホンダヌキの生態に関する研究 (飯村, 1986) より引用)

■特記事項

神奈川県ではタヌキによる農業被害が発生しており、横須賀三浦地域の横須賀市、葉山町においても被害が報告されている。

本種が観察される時期 (月)											
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
											



No.08 チョウゲンボウ

IUCN低懸念

■種の特性と生息環境

主に北海道、本州中部以東で繁殖するほか、冬鳥として全国に渡来する。神奈川県内では、留鳥または冬鳥として生息する。ハトくらいの高さで尾が長く、翼の先は尖って見える。雌雄とも尾の先端近くに幅の広い黒帯がある。従来は内陸部の断崖等で集団で繁殖し、冬季に平野部に移動していたが、近年、都市の中で繁殖する例が増え、県内でも鉄橋などの人工構造物での繁殖が確認されている。農耕地や河川敷などの開けた環境で良くみられる。小鳥類や昆虫類を捕食する。

(神奈川の鳥図鑑(1992)および、神奈川の鳥2006-10(2013)より引用)

■特記事項

チョウゲンボウは紫外線を視認できる能力を活用して、餌動物であるハタネズミの尿を目印にしながら狩りを行っている。(ハタネズミの尿は紫外線を強く反射する性質がある。)

本種が観察される時期 (月)											
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
											



No.09 ツバメ

神奈川県
減少種等

■種の特性と生息環境

九州以北に夏鳥として渡来する。西日本では越冬する個体も多い。神奈川県内では、県内全域の集落、都市に夏鳥として渡来するが、近年、海岸沿いの地域や県央の一部では少数が越冬している。繁殖は人間の居住空間と密接に結びつき、人間が出入りする建物の軒下に、泥や草を唾液で固めた椀型の巣を作る。

■生存を脅かす要因

建造物の構造変化、都市化、農耕地の減少、カラス等の捕食者による卵やヒナの捕食。

■特記事項

本種は繁殖に関してあまりにも人間との距離が近いがために、ヒナの糞の落下を嫌い、営巣中に巣を落とされるなどの被害が頻発している。さらに都市鳥化したハシブトガラスによるヒナの捕食等による影響が懸念されている。

(神奈川県レッドデータ生物調査報告書(2006)より引用)

本種が観察される時期 (月)			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



No.10 ミサゴ

環境省
準絶滅危惧種等

■種の特性と生息環境

全国の沿岸部で局地的に繁殖し、冬季には漂行する個体も多い。神奈川県内では、主に冬鳥として渡来し、相模川などの大きな河川や丹沢湖などの湖沼に生息する。大きな川や湖、入江などに生息し、空中高くからダイビングして魚を捕らえる。

■生存を脅かす要因

農薬や内分泌攪乱物質による餌生物の汚染、営巣地への人の接近。

■特記事項

県内における定期的な渡来地は限られており、生息基盤は脆弱である。近年、宮ヶ瀬湖などで繁殖期にも定着している個体が観察されるようになっており、近い将来繁殖活動を行う可能性もある。

(神奈川県レッドデータ生物調査報告書(2006)より引用)

本種が観察される時期(月)			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			




No.11 ヒガシニホントカゲ

■種の特性と生息環境

北海道、国後島および本州東部（伊豆半島除く）に広く分布する。神奈川県内では、都市部、市街地を除く県内全域に生息すると思われるが情報不足。日当たりのよい石の下や石垣の隙間、土手の斜面の穴などにすみ、ミミズやクモ、昆虫などを捕食する。幼体の尾は鮮やかなコバルトブルーだが、この色は成長とともに消える。冬季は土の中で冬眠する。

県
要注意種等

本種が観察される時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			

■生存を脅かす要因

市街地化による生息環境の減少。

（神奈川県レッドデータ生物調査報告書（2006）より）

■特記事項

本種は、長らくニホントカゲと同種とされていたが、遺伝的変異に基づいて2012年に独立種として新種記載された。このため、神奈川県RDB（2006）のランクについては、「トカゲ（ニホントカゲ）」のランクを適用した。



No.12 ミヤマクワガタ

県要注意種等

■種の特性と生息環境

北海道から九州に分布する。神奈川県内では広く生息するが、平地では少なく、周辺に山地や丘陵地がある地域に限定される。平地では雑木林のクヌギなどの樹液に集まる。6～9月に出現し、7月が最盛期。活動は主に昼間に活発になり、樹液に集まり交尾も行うが、夜間にもこのような行動が見られることがある。体長は雄で43～76mm、雌で25～40mm。体色は、雄は赤褐色から黒褐色。雌は全体黒褐色から黒色。

(神奈川県レッドデータ生物調査報告書(2006)および、
検索入門クワガタムシ(1988)より引用)

■生存を脅かす要因

雑木林減少、樹液の減少。

(神奈川県レッドデータ生物調査報告書(2006)より引用)

本種が観察される時期(月)			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



No.13 アオバト

県注目種等

■種の特性と生息環境

北海道では夏鳥、本州以南では留鳥または漂鳥として繁殖し、北部のものは冬季には南へ移動する。神奈川県内の丘陵地から山地の森林に夏鳥として渡来するが、一部は越冬する。丹沢山地と箱根山地で多くみられる。

■生存を脅かす要因

人的攪乱、森林伐採、海岸開発。

■特記事項

大磯町照ヶ崎では群で海水を飲みに来る習性が知られている。県内での個体数は少なくないと推測されるが、この特異な習性が報告されている地域は全国的にみても局地的で希少性が高い。大磯町照ヶ崎は、県から「大磯照ヶ崎のアオバト集団飛来地」として天然記念物に指定されている。

(神奈川県レッドデータ生物調査報告書(2006)より引用)

本種が観察される時期(月)

3 4 5

6 7 8

9 10 11

12 1 2



No.14 ミゾゴイ

環境省
絶滅危惧種Ⅱ類等

■種の特性と生息環境

夏鳥として飛来し、本州から九州で繁殖する。丘陵地から低山地の良く茂った広葉樹林に飛来し、4～7月に高木の枝先に営巣する。沢沿いで採餌し、サワガニ、カエル類などを好んで捕らえる。県内では繁殖の確実な記録は稀で、鎌倉市の例のほか、近年三浦半島で記録された。

本種が観察される時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			

■生存を脅かす要因

ゴルフ場、住宅地などの造成。

（神奈川県レッドデータ生物調査報告書（2006）より引用）

■特記事項

ミゾゴイは繁殖地への渡来後、縄張りを示す等のために日没後に「ポー、ポー」というウシガエルにも似た低い音でさえずりを行う。さえずりの場所は、営巣地となる場所周辺の樹冠等が多く、アンテナ等の人工物を利用することもある。

（ミゾゴイ保護の進め方（2016）より引用）



出典「ミゾゴイ保護の進め方（環境省）」
<https://www.env.go.jp/content/900506754.pdf>

No.15 ショウリョウバッタモドキ

県要注意種等

■種の特性と生息環境

北海道から九州に分布する。神奈川県内では、全県の平地から丘陵地に生息する。チガヤなどイネ科草本の茂る草地に見られる。飛ぶことはほとんどない。年1化で秋に成虫が出現する。


■生存を脅かす要因

市街地における草地の減少、河川敷で芝生化やコンクリート護岸化、丘陵地の開発。

(神奈川県レッドデータ生物調査報告書(2006)より引用)

■特記事項

本種は、ショウリョウバッタと比べると、頭部が短くて丸みを帯びており、体が短く、ややずんぐりとした形をしているほか、後ろ足は短く、ジャンプ力もやや弱い。また、翅が短く、飛行能力は低い。体系や体色をイネ科草本に酷似させている。外敵の気配を感じると素早く葉裏に移動するなど危機回避が非常に巧みである。

本種が観察される時期(月)			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



No.18 クロサギ

県絶滅危惧種Ⅱ類等

■種の特性と生息環境

本州以南の沿岸部に広く分布し、北海道でも記録がある。神奈川県内では、留鳥として三浦半島と真鶴半島に生息し、繁殖もしているが繁殖個体数はわずかである。岩礁海岸に生息し、潮だまりなどで魚を捕らえる。岸壁の隙間や岩棚などを利用して営巣する。


■生存を脅かす要因

営巣地への釣り人等の接近。

■特記事項

環境的な悪化は特にみられないが、営巣地となっている岸壁への釣り人の接近が心配される。近年では、真鶴半島の営巣地近くで海岸へ下りるための梯子が設置された事例も報告されている。

(神奈川県レッドデータ生物調査報告書(2006)より引用)

本種が観察される時期(月)			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



No.20 ハネナシセスジナガキマワリ

■種の特性と生息環境

本州、四国、九州、対馬に分布する。神奈川県内では、横須賀市深田台竜本寺、観音崎で記録がある。体長は9.5～13.0mm。体色は暗赤褐色から黒褐色。背面は鈍い光沢がある。頭部は非常に密に点刻される。複眼は大きい。前胸背板は六角形で、側縁中央がわずかに角張る。非常に密に点刻され、前縁、基縁、側縁が完全に縁取られる。照葉樹林に生息する。盛夏に出現し、夜間立ち枯れなどにいる。

(神奈川県レッドデータ生物調査報告書(2006)および、日本産ゴミムシダマシ大図鑑(2016)より引用)

■生存を脅かす要因

環境悪化。

■特記事項

1986年の横須賀市の記録以降、記録がなかったが、最近、観音崎で得られた。少ないながら生息している模様。
(神奈川県レッドデータ生物調査報告書(2006)より引用)

県絶滅危惧種Ⅱ類

本種が観察される時期 (月)											
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2



【特定外来種】 クリハラリス(タイワンリス)

特定外来生物

■種の特性と生息環境

本種は、アジア南部（中国南部からマレー半島）に広く分布しており、このうち、台湾固有のクリハラリスが通称タイワンリスと呼ばれている。神奈川県内では、横須賀三浦地域のほか、藤沢市、茅ヶ崎市、大和市、横浜市南部への侵入・生息が確認されている。主に常緑広葉樹林を好むが、市街地・造林地でも生息することができる。

■本種による被害

生態系被害、生活被害、農林業被害が報告されている。

■特記事項

本種は「特定外来生物」に指定され、飼育、保管、運搬、輸入及び野外への放出などが原則として禁止されている。横須賀三浦地域の各市町では、従来から外来生物法に基づく防除が行われている。このほか、県では分布拡大の防止を目標とした防除が実施されている。

(神奈川県HPより引用)

本種が観察される時期（月）			
3 4 5	6 7 8	9 10 11	12 1 2
			



【特定外来種】

アライグマ

特定外来生物

本種が観察される時期（月）											
3 4 5			6 7 8			9 10 11			12 1 2		
											

■種の特性和生息環境

本種は北米～中米（カナダ南部～パナマ）に自然分布しているが、1962年以降、動物飼育施設から逸走、ペットの逸出や放逐等により国内に侵入し、現在はほぼ全国に分布している。神奈川県内では、南東部を中心に全域に広く生息している。夜行性で木登りや泳ぎが得意。雑食性で小型哺乳類、魚類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、野菜、果実、穀物等を採餌する。

■本種による被害

生態系被害、生活被害、農林業被害が発生しているほか、狂犬病等の人畜共通感染症の媒介が懸念されている。

（国立環境研究所侵入生物データベースより引用）

■特記事項

本種は「特定外来生物」に指定され、飼育、保管、運搬、輸入及び野外への放出などが原則として禁止されている。



